# 令 和 6 年 度　　津 田 中 学 校　　学 校 評 価

| | 自　己　評　価 | | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と<br>今後の改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 重点目標 | 活動計画 | 評価指標 | 評　価 | | 学校関係者の意見 | |
| 学習指導 | １．生徒の基礎的な知識・技能の定着と学ぶ意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。<br><br>２．生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 | １．学びへの興味・関心をもたせるため、GIGAスクール事業のタブレットなどのICT活用に積極的に取り組む。また、生徒同士の協働の場面をつくるなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。<br><br>２．自主学習ノートの使い方の指導を行ったり、持ち帰ったタブレットを有効に活用し家庭学習の方法や内容を提示したりすることで、学習方法及び学習習慣の定着を図る。「家庭学習の手引き」を作成し、学習指導に役立てる。 | １-①．「ICTを利用した授業が行われている。」と答える生徒が80%以上となる。<br>１-②．「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答える生徒が80%以上となる。<br><br>２-①．「家庭学習が習慣化している。」と答える生徒・保護者が85%以上となる。<br>２-②．「家庭学習の方法を身に付けている。」と答える生徒が80%以上となる。 | １-①．「先生はICTを活用した授業を行っている。」と答えた生徒は76.1%であった。<br>１-②．「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答えた生徒が88.4%で目標を上回った。<br>２-①．生徒73.8%、保護者75.0%となり、目標を達成できなかった。<br><br>２-②．71.9%であり、目標を達成できなかった。 | B | ○タブレット端末を使った授業が増えて、授業内容が変わったのか、自分の考えを表現する力が身に付いてきたようだ。今後、デジタル教科書が導入されるようだが、デジタルだけでなく、紙の教科書も大事にしてほしい。<br><br>○家庭学習が定着するように、小学校から保護者に啓発するようにしなければいけない。家庭学習の時間の確保に向けて、啓発し続けることをお願いしたい。 | ○授業でのICT機器の利用は定着しており、各教科の様々な場面で効果的に活用できている。しかし、生徒用タブレットの活用や、学習者用のデジタル教科書の活用にはまだ多くの課題が残されている。<br><br>○「学校の授業がわかる」と回答した生徒は80%以上いるが、授業で学習した内容が家庭学習で十分に定着できていないように思われる。家庭での学習時間を確保することの指導や、学習方法の具体的な提示の仕方を改善していく必要がある。 |
| 生徒指導 | １．自発的なあいさつの定着を図る。<br><br>２．いじめの予防・早期発見、生徒理解を深め、相談体制を確立する。 | １．教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。<br><br>２．学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。 | １．「自ら進んで、あいさつがきちんとできている。」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。<br><br>２．いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。 | １．生徒・教職員とも80%を超えたが、保護者は71.4%で立場によって意識の差がある。今後もあいさつを奨励していく必要がある。<br>２．「教職員に相談ができる。」と答えた生徒は77.5%と少なく、教職員の生徒理解をより深める必要がある。また、保護者との連絡を密にし、情報収集・共通理解に努めたい。 | B | ○登下校中などに声をかけ続けると、いずれ自発的にあいさつができるようになる。よい習慣をつけるために、あいさつ運動などを積極的に行ってほしい。<br><br>○いじめ予防のために、生徒が誰にでも相談できる体制を継続してほしい。 | ○今後も生徒会と教職員が一緒にあいさつ運動を積極的に行うとともに、部活動や学校行事等を通してあいさつの重要性を伝えていく。<br><br>○生活アンケートや日々の観察からだけでなく、教職員間・保護者との情報共有や共通理解を通して、生徒に寄り添った生徒指導を心がけていく。 |
| 道徳・人権教育 | １．校訓の精神を基盤として、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりの気持ちを表現できる豊かな心をもった生徒を育成する。<br><br>２．人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身に付け、日常生活の中で人権を尊重した行動ができる生徒を育てる。 | １．22項目の内容を計画的に配置し、道徳性や道徳的実践力を育む。また、生徒が意欲的に活動できるような、授業形態の工夫や補助教具の活用を図る。導入して４年目となるローテーション道徳を生かし、様々な視点で生徒の育成を図る。<br><br>２．津田中生みんなが幸せになるために、自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。 | １-①．生活アンケートの「あいさつ・感謝の言葉を伝える」ことができる生徒が90%以上となる。<br>１-②．清掃や交通マナーなど「集団や社会の一員として」の生活内容で90%以上となる。<br><br>２．自他の人権を尊重しようとする意欲をもち、「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。 | １-①．「あいさつ」の項目は82.2%で、目標には届かなかった。「感謝の言葉を伝える」は97.9%と高かった。<br>１-②．「清掃」は88.8%、「交通マナー」は94.8%で、「集団や社会の一員として」の生活内容で90%程度となった。<br><br>２．　自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」生徒が95.3%で、目標を上回ることができた。 | B | ○生徒指導との関連もあるが、「あいさつ」に関する意識が向上し、自分からあいさつができる生徒が増えることを期待する。<br><br>○引き続き人権教育にも注力していただき、どのようなときでも当たり前に自他を尊重する態度を育ててほしい。 | ○自分の意見を大切にしながら、相手を尊重できる生徒を育てたい。あいさつや奉仕活動が自ら実践できるよう、授業で道徳的実践力を育てる。また、ローテーション道徳を継続し、学年全体で共通理解を図りながら取り組む。授業形態や補助教具・教材の共有を行い、効果的な授業づくりを目指す。<br><br>○「家庭で人権についての話をしている」の肯定的な回答が、58.3%であった。学年通信等を通して、家庭への人権教育の発信、啓発をしたい。 |
| 特別支援教育 | １．通常学級に在籍する配慮を要する生徒への理解を深め、支援を実施し、改善を図る。<br><br>２．支援学級に在籍する生徒に対して、指導計画を基に計画的な指導を行う。<br><br>３．教職員の特別支援教育に関する理解を深める。 | １．支援の在り方と、保護者や他機関との連携方法を工夫する。<br><br>２．担当教員間で情報を共有し、学期ごとに評価をして改善を図る。<br><br>３．校内支援委員会等を活用して支援体制を充実させ、教職員の理解を深める。 | １．「教育のユニバーサルデザインとポジティブな行動支援を心がけている。」と答える教職員が80%以上となる。れん面談を活用し、保護者との連携を図る。<br>２．指導計画を基に保護者面談を行い、保護者との連携に活用する。<br><br>３．校内支援委員会を年間４回以上開催し、校内支援の体制を整える。 | １．すべての教職員が「ユニバーサルデザインとポジティブな行動支援を心がけている。」と回答した。れん面談等を活用して、保護者との連携を図ることができた。<br>２．教職員の92.4%が「個性に応じた指導と配慮を工夫している」と回答した。指導計画を保護者連携に活用することができた。<br>３．職員会議を活用して、校内支援委員会を５回開催した。校内の支援体制を整え、情報共有を図ることができた。 | B | ○ユニバーサルデザインを意識した授業をすることで、交流学級で学んでいる特別支援学級の生徒だけでなく、多くの生徒が「わかる」授業を体験できる。引き続き、授業の工夫をお願いしたい。 | ○全ての生徒にわかりやすいよう、教育のユニバーサルデザインやポジティブな行動支援などの第１層支援を充実させていく。<br><br>○生徒の特性や状況などを、学年・学校として共有していく。<br><br>○教職員・保護者・SC・医療機関等の連携を密にし、様々な要望や状況への対応力を高める。 |
| 健康・安全指導 | １．自分の心身の発達に関心をもち、健康の保持増進に努める。<br><br>２．校内の危険箇所の発見・修理により安全な学習環境を保持する。 | １．健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。<br><br>２．施設・設備の定期点検を行い、危険箇所の早期発見、早期修理に努める。 | １．「心身の健康に気を付けた生活が送れている。」と答える生徒が90%以上となる。<br><br>２．「校内の危険箇所をすぐに修理してくれている。」と答える生徒・教職員が80%以上となる。 | １．「心身の健康や感染症対策に気をつけた生活が送れている。」と答える生徒は、84.6%となり、昨年度より1.0ポイント減少した。<br>２．教職員92.3%であったが、生徒は67.3%となり、目標値に届かなかった。加えて、生徒と教職員で意識の差が見られた。 | B | ○体力の二極化が顕著になっているようだ。肥満の生徒が多いのも気になるので、体力向上に尽力してほしい。部活動の地域移行により、部活動に入らない生徒が増えると思われる。それらの生徒たちに、しっかりと体を動かす機会を作ってほしい。 | ○月１回の健康力アップ作戦を継続し、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む意欲を育てていきたい。<br><br>○今後は、更に生徒・教職員の声に耳を傾けていくことで対処をしていき、学校が安心・安全な環境となるよう努めたい。 |
| 地域とともにある学校づくり | １．保護者や地域の方々に、学校経営方針や教育活動の状況について説明し、連携・協働体制を確立する。<br><br>２．学校運営協議会を活用し、学校と地域が情報を共有し、課題解決に向かうことができるようにする。 | １．授業参観等の機会を捉え、教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学年だよりによる情報発信を積極的に行ったりする。<br><br>２．教育活動において地域の人財を活用し、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりに努める。 | １．ホームページの更新やオープンスクールの実施により、「学校の様子がわかる。」と答える保護者が80%以上となる。<br><br>２．「学校・家庭・地域が連携できている。」と答える保護者・教職員が70%以上となる。 | １．「学校の様子がわかる」と肯定的に回答した保護者は、84.5%であり目標値に達成することができた。<br><br>２．目標値の70%以上に達したものの、保護者と教職員で6.7ポイントの差があり、意識の隔たりが見られた。 | B | ○近年、地域の人々と接する機会が少なくなっている。地域人財を活用してほしい。<br><br>○「おはよう」「おかえり」が言える地域づくりが大切だと考えている。学校と地域でともに子ども達を育てていきたい。 | ○今後も、学校ホームページについて周知するとともに、学校からの配付物が確実に家庭に届くように指導する。<br><br>○次年度も、学校運営協議会制度を活用し、地域の方々と連携し、学校教育の充実を図るとともに、地域とともにある学校づくりに一層取り組んでいきたい。 |